

チャンス・チャレンジ・チェンジ



秋田県立支援学校天王みどり学園 加賀谷 勝

今年を振り返って

今年の相談活動の特徴として、検査報告以外で保護者と面談する回数が増えたこと、本校の地域研修会に近隣の保護者が多数参加したことがあげられます。この背景には、保護者が子育ての悩みを一人で抱え込んでいることが考えられます。園や学校だけでなく、地域の関係機関が連携して、保護者を支える支援体制の整備が求められています。

【私が保護者に伝えていること】子どもが変わるのは周囲がその子を見る視点が変わったとき！



- 子どもにはみんないいところがある（否定的な指導は最小限に！）
 - テストで60点取ったとすると、40点取れなかったか失敗追求ではなく、なぜ60点取れたのか成功追求をする。そして、60点取れた方法を続けていく。100点からスタートしてできなかったところを減点していくのではなく、ゼロからスタートして加点する。子どもに期待する喜びは小さく、子どもを幸せにする喜びを大きくする。
- ダメなことを言えば言うほどダメになる（子どもは評価されたように育つ！）
 - 子どもは叱られてばかりいると、「私はダメなんだ」と、自己肯定感が低くなり、注意を引くために問題を起こす。ターゲット行動を絞って、ほめる回数を増やす。「まだ、準備ができないの、早くしなさい」ではなく、「もう、準備はできたかな」に変える。そして、最後は温かい言葉を掛けて成功体験で終わることで次につながっていく。
- 選択肢を有効に活用する（本人に選ばせると最も強い力を発揮する！）
 - 本人の主体性を尊重しつつ、現実的な選択肢を用意することで、自分で考えて行動するようになる。自分で選ぶと自分の選択に対して責任をもつ。辛いことがあっても、自分で決めたので、仕方がないと結果に納得する。「宿題やる、やらない」ではなく、「9時からやる、9時10分からやる」と肯定的な選択肢を与える。
- スキンシップと共感的な関わりを大切にする（子どもの気持ちを基準に対応する！）
 - 子どもが熱を出したりお腹が痛くなったりしたとき、手を当てたりそっと手を握ったりするだけで子どもの心は楽になる。「学校に行きたい気持ちと、行くのが不安な気持ちがある」という相反する気持ちがあることを受け止めて、返してあげるだけで子どもの心は楽になる。
- しつけは繰り返し教えて待つこと（急がない・手を抜かない！）
 - しつけは、繰り返し教えて、それが実行できる時期をゆっくり見守りながらできるだけ子どもに任せる。育児に失敗があるとすれば、その多くは急ぎすぎることである。



子どもにとっていいおもちゃとは？

もうすぐクリスマス、子どもたちはサンタさんからのプレゼントを楽しみにしています。さて、子どもにとっていいおもちゃとは何だと思いませんか？ 決してお店に売っている高額なものではありません。実は身近なところにあります。それは、お父さんやお母さんの声（コミュニケーショントイ）、笑顔（ビジュアルトイ）、手（スキンシップトイ）です。代表的なのが♪いないいないばあ♪です。大人も子どもも笑顔になります。ちなみに、日本で一番売れている絵本は「いない・いない・ばあ」です。来年も子どもたち一人一人が笑顔いっぱいの一年になりますように！

